

第2回 福山市学校教育環境検討委員会 次第

日時 2025年(令和7年)4月30日(水)

18時30分から

場所 福山市役所 本庁舎3階 中会議室

1 教育長あいさつ

2 福山市学校教育環境検討委員会委員・事務局紹介(異動者)

3 報告・説明

第1回検討委員会の概要及び補足説明

4 諮問事項についての協議

○これまでの取組を踏まえた今後の学校再編の在り方について

○新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について

5 その他

○次回(第3回)学校教育環境検討委員会

【日時】2025年(令和7年)6月5日(木) 18:30~

【場所】福山市役所本庁舎 3階 大会議室

福山市学校教育環境検討委員会 委員名簿

■委員 【委嘱年月日】 2025年（令和7年）3月24日
 【委嘱期間】 教育委員会の諮問に係る意見を答申した日まで

名前	ふりがな	選出団体等
伊澤 幸洋	いざわ ゆきひろ	福山市立大学教育学部教授
森 美智代	もり みちよ	福山市立大学教育学部教授
佐々木 伸子	ささき しんこ	安田女子大学理工学部建築学科教授
山岡 英樹	やまおか ひでき	福山市自治会連合会副会長
久保 辰己	くぼ たつみ	福山市自治会連合会常任理事
高杉 清志	たかすぎ きよし	福山市連合民生・児童委員協議会副会長
佐藤 正	さとう ただし	福山市交流館長会幹事
野田 寿雄	のだ としお	福山市PTA連合会会長
三木 智恵	みき ちえ	福山市PTA連合会幹事
阿部 勉	あべ つとむ	福山市PTA連合会常任理事
橋本 秀基	はしもと ひでき	福山市公立小学校長会会長
新谷 陽子	しんたに ようこ	福山市公立中学校長会
土利川 佳保	とりかわ よしやす	福山市保育施設保護者会連合会会長
小鼓 悠	こつづみ はるか	福山市私立幼稚園PTA連合会
菅田 雅夫	すがた まさお	福山商工会議所副会頭
金山 節津	かなやま せつ	市民公募
亀山 マリエ	かめやま まりえ	市民公募
佐藤 有香	さとう ゆか	市民公募
花谷 忠厚	はなや ただひろ	市民公募

※下線：第1回委員会からの変更

■事務局

(福山市教育委員会)

2025年(令和7年)4月1日現在

名前	ふりがな	所属
小林 巧平	こばやし こうへい	教育長
藤井 紀子	ふじい のりこ	管理部長
笹尾 孝治	ささお たかはる	学校教育部長
安保 暢俊	あぼ まさとし	管理部 学校再編推進室長
藤野原 啓宏	ふじのはら たかひろ	管理部 施設課長(兼)学校再編推進室主幹
曾根 貴典	そね たかのり	学校教育部 学事課長
片山 富行	かたやま とみゆき	学校教育部 学びづくり課長

※下線：第1回委員会からの変更・異動

第1回検討委員会の概要

第1回 福山市学校教育環境検討委員会 概要

【日時】 2025年(令和7年)3月24日(月) 17:30~19:35

【場所】 市役所本庁舎3階 中会議室

【出席】 委員19人(全員出席)

◎委員長、○副委員長

◎伊澤 幸洋	福山市立大学教育学部教授	橋本 秀基	福山市公立小学校長会会長
森 美智代	福山市立大学教育学部教授	新谷 陽子	福山市公立中学校長会
○佐々木 伸子	福山大学工学部建築学科准教授	土利川 佳保	福山市保育施設保護者会連合会会長
山岡 英樹	福山市自治会連合会副会長	小鼓 悠	福山市私立幼稚園PTA連合会
久保 辰己	福山市自治会連合会常任理事	菅田 雅夫	福山商工会議所副会頭
高杉 清志	福山市連合民生・児童委員協議会副会長	金山 節津	市民公募
佐藤 正	福山市交流館長会幹事	亀山 マリエ	市民公募
野田 寿雄	福山市PTA連合会会長	佐藤 有香	市民公募
三木 智恵	福山市PTA連合会幹事	花谷 忠厚	市民公募
阿部 勉	福山市PTA連合会常任理事		

【概要】

- 1 教育長あいさつ
- 2 福山市学校教育環境検討委員会委員の委嘱・紹介
- 3 事務局紹介
- 4 委員長・副委員長互選
- 5 諮問：福山市がめざす学びを実現する学校教育環境の在り方について
- 6 審議スケジュール
- 7 協議内容：福山市立小・中・義務教育学校の現状と課題について

<ol style="list-style-type: none"> (1) 児童生徒数の現状と将来推計 (2) 学校規模の現状と将来推計 (3) 福山市立小・中・義務教育学校の位置図 (4) 学校施設 (5) これまでの学校再編の取組 	<ol style="list-style-type: none"> (6) 特別な支援が必要な児童生徒の状況 (7) 教師の現状 (8) コミュニティ・スクール (9) 義務教育学校 (10) 福山市のめざす教育
---	--
- 8 その他

委員から出された主な意見

(1) 児童生徒数の現状と将来推計

資料10ページ

- ・福山市立の学校だけでなく、国・私立の学校の児童生徒数の実績について、情報がほしい。
- ・少子化の進行を抑えるためには、市の子育て支援施策の充実や福山市の魅力向上も必要である。

(4) 学校施設

資料14ページ

- ・全国の自治体が同じ課題を抱えている。これまでは安全面を最優先し、耐震補強工事や改築工事に注力し、耐震化を完了したところである。今後は、これからの教室の在り方について考える段階にきている。今ある校舎をどう改修していくか、こどもたちの活動状況や特性、居心地等を考慮した環境づくりが必要である。

第1回検討委員会の概要

- ・ これまではどこの自治体も、学校は同じような建物・配置だったが、今後の老朽化に伴う学校施設の改修や建替えは、各自治体の知恵が試される。
- ・ 現状の教室や職員室は非常に狭く感じるため、今後の施設整備においては、もう少し教室面積を広くとった設計とすることが望ましい。
- ・ 建築経過年数が40年を超える建物が約8割を占めており、施設整備の優先度の考え方の整理も必要である。
- ・ 基幹緊急避難場所に指定されている体育館に空調設備の整備をすると聞いている。体育館や特別教室等の空調設備については、こどもたちの教育に支障が出ないことを第一に考えて、検討することが望ましい。

(5) これまでの学校再編の取組

資料21ページ

- ・ 前任の再編対象校では、変化の激しい社会をたくましく生きていく力をつけていくための授業づくりこそが再編の取組という思いからスタートした。こどもたちや保護者、地域の方々の心理的不安の軽減を第一に考え、開校前の事前交流（授業交流、合同授業参観日、合同野外活動等）に注力した。また、こどもたちは、クラスの人数が増え、より多様な意見を聞くことができるようになり、自分の意見にも友だちから多くの反応を示してもらうことで、だんだんと自信をつけていった。また保護者は、様々な場面でこどもの選択肢が増えたことを実感し、その過程を通して成長を感じることも多かった。
- ・ 再編により地域から学校がなくなることへの抵抗感は、非常に強いと想像できるが、現状を考えると再編はいたしかたないとも思う。案外こどもたちの方が早く順応し、大人の方に抵抗感が強く残るのではないかと思う。
- ・ 実際、学校再編で複数の地域が一緒になったことにより、地域同士のつながりができている。
- ・ 常石ともに学園は異年齢グループで学んでいることなどから、想青学園（後期課程）に進学したとき違和感はないのかという質問を受けることはあるが、異なる学びが一緒になることでの相乗効果が期待できる。こどもたちはうまく適応していくので、大人の方が慣れないといけないと感じる。
- ・ 常金丸小学校・交流館・放課後児童クラブの複合化は、学校施設に限らず他の公共施設も同様に老朽化による大規模な改修や建替えが集中する状況があることから、今後を踏まえたとても良い取組だと思う。
- ・ 関係施設が同じ敷地内にあることで、情報交換も頻繁にできる。
- ・ 小学生の間は、たくさんの人と関わる経験が大切だと思う。中学生になると、さらに社会との関わりを深め、将来の職業を見据えた経験が必要である。こどもに必要な環境を、ストーリー立てて考えるのも良いのではないかと思う。

(6) 特別な支援が必要な児童生徒の状況

資料27ページ

■特別支援教育

- ・ 特別支援教室は、音や光、活動時の居心地の良さなど、配慮した空間にする必要がある。

■外国人

- ・ 1か月程度では生活言語は身につかない。学習言語はもっと期間が必要である。9月に設置予定の日本語初期指導教室では、修了後も在籍校と連携していくとのことであり、支援の充実が図られるよう期待している。

■不登校

- ・ 不登校児童生徒数はこの数年で急増しているが、第1要件の学校に在籍していた児童生徒が

第1回検討委員会の概要

再編後の学校で不登校になることは少ないと分かると安心するので、情報がほしい。

- ・新しい学校を開校したとき、ちょうどコロナ禍で臨時休校した時期があった。不登校の理由は学校規模に関わらず様々だが、当時、多くのこどもたちが学校生活への不安を抱えていたのは事実であり、どの学校においても丁寧に対応した。
- ・想青学園には、教室に併設されているクラスブースや教室以外の居場所が設けられており、教室に入りにくいこどもたちが過ごすことができ、不登校の抑制にもなっていると聞いた。
- ・再編により適正規模になる学校と常石ともに学園のような学校が、地域ごとに対で存在するようになれば、在り方として、一つの可能性になるのでは。

(7) 教師の現状

資料29ページ

- ・精神疾患を理由に病気休暇を取得している教師の人数について、学校規模によって傾向があるのか、要件別に情報がほしい。

(9) 義務教育学校

資料31ページ

- ・国が、高校授業料の無償化について検討している。定員割れなどを理由に多くの私学が中高一貫教育校となっており、中学校から私学へ進学し、公立離れする可能性も高い。義務教育学校を整備するのであれば、そうした動向も注視しながら計画した方が良いと考える。
- ・想青学園の施設は、オリジナルの空間などが全国から注目され、視察も多く受け入れている。福山市の自慢の学校だと思う。そうした空間等の使用状況や効果等を検証し、今後の学校の改修等の際にアレンジして取り入れるといった福山のスタンダードモデルを作ってはどうかと考える。

(11) その他

- ・福山市の魅力ある公立学校を、もっと子育て世代にアピールしたら良いと思う。保護者にとっても、学校の選択肢の幅が広がる。

|| まとめ

福山市立小・中・義務教育学校の現状と課題を踏まえ、第2回委員会から、3つの諮問事項について審議する。

以上

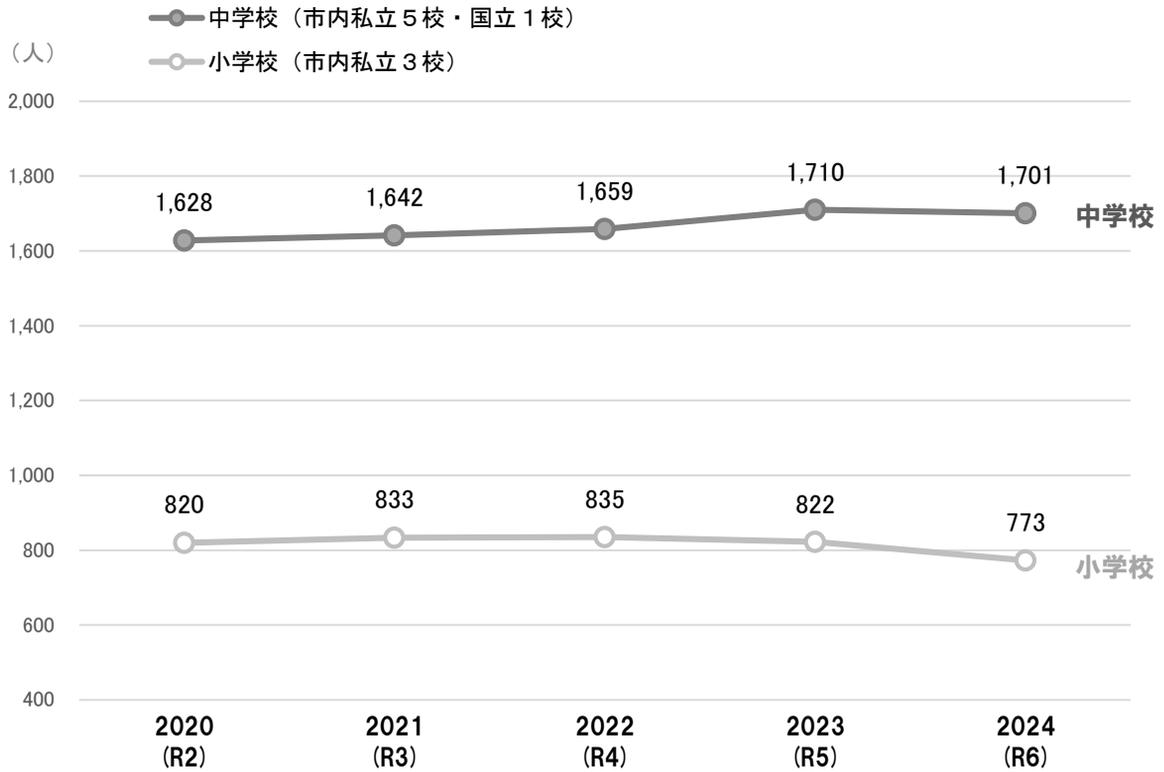
第1回検討委員会の補足説明

「(1) 児童生徒数の現状と将来推計」追加資料 (第1回資料10ページ)

【福山市内の私立・国立学校の児童生徒数の推移（実績）】

※各年度5月1日現在

※児童生徒数には福山市外出身者を含む



出典：文部科学省 学校基本調査

1 これまでの取組を踏まえた今後の学校再編の在り方

- ・「福山市小中一貫教育と学校教育環境に関する基本方針」に基づき、第1要件に係る学校再編の完了の見通しと並行して、第2要件に係る学校再編の取組を検討した。
- ・小中一貫教育推進の観点から、義務教育学校の整備の可能性を検討した。

第1要件に続く再編計画の検討

	小学校	中学校	義務教育学校
適正規模	学級数 12～18学級 1学級あたり 16人以上	学級数 9～12学級 1学級あたり 20人以上	(規定なし) ※現在は、 前期：小学校 後期：中学校の 要件に準じた取扱い
第1要件	学級数 1～5学級	学級数 1～3学級 かつ 全ての学級で1学級あたり 19人以下	
第2要件	全学年が1学級 かつ 1学級あたり 15人以下	学級数 3～5学級	
第3要件	学級数 6～11学級	学級数 6～8学級	

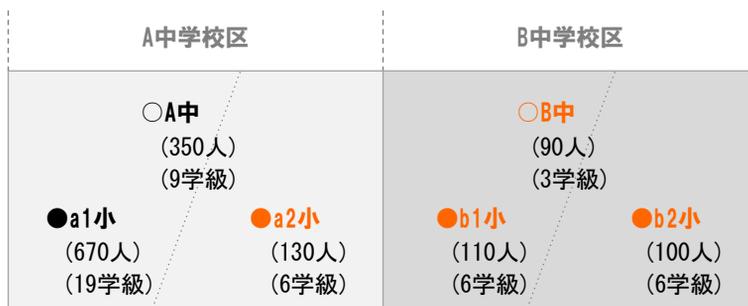
【主な指標】

- 児童生徒数・学級数の推移（実績+推計30年間）
- 施設・土地の状況
 - ・築年数、老朽度
 - ・保有教室数
 - ・校地面積、建物面積
 - ・プール、給食室、放課後児童クラブ
 - ・借地の有無
 - ・緊急避難場所の指定状況
 - ・ハザードマップの状況
- 通学の状況
 - ・時間 [通学条件の基本的な考え方]
 - ・距離 小学校：概ね2km以内、概ね1時間以内
中学校：概ね6km以内、概ね1時間以内
 - ・通学支援が必要な人数

【検討経過の一例】

基本情報

- 隣接する2中学校区



※第2要件（オレンジ）

適正規模（黒）

※児童生徒数：特別支援学級の児童生徒を含む

学級数：通常学級のみ

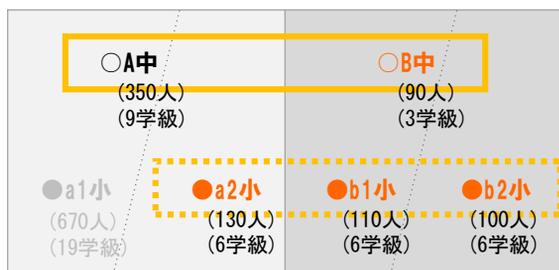
1 これまでの取組を踏まえた今後の学校再編の在り方

第1 要件に続く再編計画の検討

【検討経過の一例】

※第2要件（オレンジ）
適正規模（黒）

候補 ① 小小・中中再編



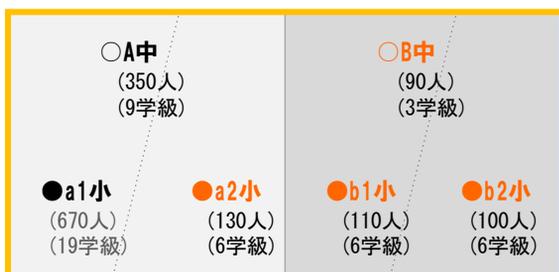
■児童生徒数

小小再編	中中再編
340人/12学級 (適正規模)	440人/12学級 (適正規模)

課題

- ・中学校区を越える小学校の再編について、保護者・地域の理解を得る必要がある。
- ・第2要件同士の再編のため、数年後に再び第2要件となる恐れがある。

候補 ② 義務教育学校（4小2中）



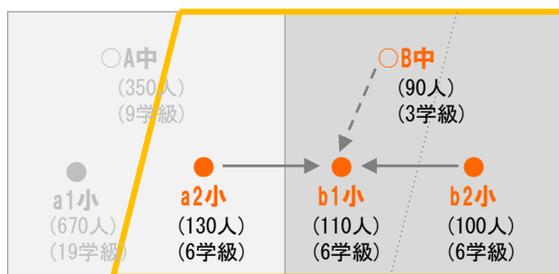
■児童生徒数

前期課程	後期課程	計
1,010人/30学級 (大規模)	440人/12学級 (適正規模)	1,450人/42学級

課題

- ・全児童生徒数が1,000人を超える大規模校となる。
(参考：想青学園600人)

候補 ③ 義務教育学校（3小1中）



■児童生徒数

前期課程	後期課程	計
340人/12学級 (適正規模)	90人/3学級 (第2要件)	430人/15学級

■整備候補校

- b1小 …
 - ・校舎（新築）
 - ・屋内運動場（新築）
 - ・グラウンド



スクールバス乗降所設置、プール整備のため、新たな敷地の取得が必要。取得にあたっては、市街化調整区域等調整が必要な場合がある。

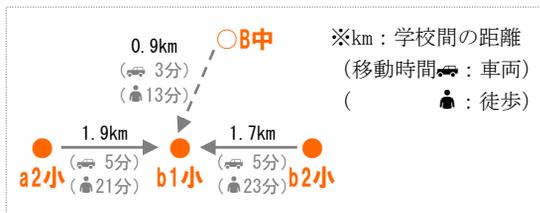
- B中 …
 - ・屋内運動場（既存）
 - ・第2グラウンド



校舎・グラウンドの一部が土石流警戒区域等、場所によっては、盛土や擁壁設置等の整備が必要。

■通学支援対象

- a2小 … 最大 130人 中型バス
- b2小 … 最大 100人 中型バス



課題

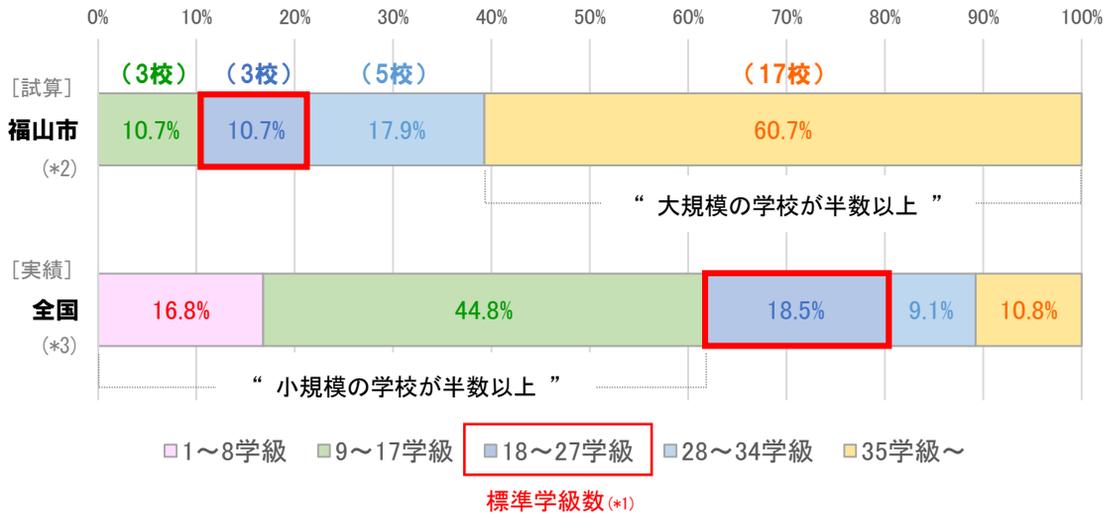
- ・中学校区を越える再編について、保護者・地域の理解を得る必要がある。
- ・学校施設やスクールバス乗降所の整備のため新規土地を取得する必要がある。

1 これまでの取組を踏まえた今後の学校再編の在り方

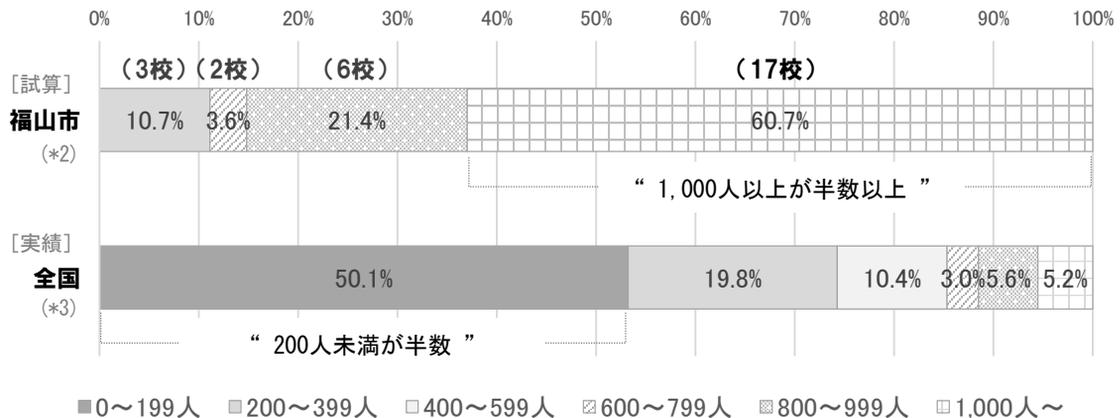
現在の中学校区毎に義務教育学校を整備した場合の学級数・児童生徒数

学級数 : 通常学級のみ (全児童生徒を通常学級編成として算出)
 ※ 1学級35人、特別支援学級は必要に応じて設置するため算定していない
 児童生徒数 : 通常学級+特別支援学級 (2024年(令和6年)5月1日現在)

【義務教育学校の学級規模別割合】



(参考) 義務教育学校の児童生徒数別割合



(*1) 学校教育法施行規則第79条の3

義務教育学校の学級数は、18学級以上27学級以下を標準とする。

ただし、地域の実態その他により特別の事情のあるときは、この限りではない。

(*2) 広瀬学園、鞆の浦学園、想青学園を除く28中学校区

(*3) 全国データの出典：文部科学省 令和6年度学校基本調査

1 これまでの取組を踏まえた今後の学校再編の在り方

現在の中学校区毎に義務教育学校を整備した場合の学級数・児童生徒数

学級数 : 通常学級のみ (全児童生徒を通常学級編成として算出)
 ※1学級35人、特別支援学級は必要に応じて設置するため算定していない
 児童生徒数 : 通常学級+特別支援学級 (2024年(令和6年)5月1日現在)

【各中学校別の児童生徒数・学級数】

	児童生徒数(人)		前期	後期	計
東中学校区	手城小	495 ▶ 児童生徒数(人)	1,183	441	1,624
	深津小	459 学級数(学級)	37	14	51
	旭小	229			
	東中	441			
城北中学校区	西小	393 ▶ 児童生徒数(人)	1,288	689	1,977
	樹徳小	474 学級数(学級)	40	21	61
	久松台小	262			
	明王台小	159			
	城北中	689			
城南中学校区	南小	284 ▶ 児童生徒数(人)	1,579	750	2,329
	川口小	502 学級数(学級)	49	23	72
	多治米小	489			
	川口東小	304			
	城南中	750			
鷹取中学校区	霞小	248 ▶ 児童生徒数(人)	650	248	898
	光小	402 学級数(学級)	20	9	29
	鷹取中	248			
城東中学校区	蔵王小	156 ▶ 児童生徒数(人)	763	428	1,191
	緑丘小	607 学級数(学級)	24	14	38
	城東中	428			
幸千中学校区	千田小	591 ▶ 児童生徒数(人)	1,455	646	2,101
	御幸小	864 学級数(学級)	44	20	64
	幸千中	646			
清美中学校区	津之郷小	278 ▶ 児童生徒数(人)	1,002	392	1,394
	赤坂小	253 学級数(学級)	31	13	44
	瀬戸小	471			
	清美中	392			
向丘中学校区	水呑小	743 ▶ 児童生徒数(人)	882	367	1,249
	高島小	139 学級数(学級)	29	12	41
	向丘中	367			
鳳中学校区	伊勢丘小	400 ▶ 児童生徒数(人)	658	309	967
	幕山小	258 学級数(学級)	21	10	31
	鳳中	309			
培遠中学校区	春日小	350 ▶ 児童生徒数(人)	633	324	957
	日吉台小	283 学級数(学級)	22	11	33
	培遠中	324			

※校番順

※学級規模別に色分け

- 9～17学級
- 18～27学級
- 28～34学級
- 35学級～

1 これまでの取組を踏まえた今後の学校再編の在り方

現在の中学校区毎に義務教育学校を整備した場合の学級数・児童生徒数

学級数 : 通常学級のみ (全児童生徒を通常学級編成として算出)
 ※1学級35人、特別支援学級は必要に応じて設置するため算定していない
 児童生徒数 : 通常学級+特別支援学級 (2024年(令和6年)5月1日現在)

【各中学校区別の児童生徒数・学級数】

	児童生徒数(人)		前期	後期	計	
大成館中学校区	神村小	327	▶ 児童生徒数(人)	861	398	1,259
	本郷小	157	学級数(学級)	28	12	40
	遺芳丘小	377				
	大成館中	398				
松永中学校区	松永小	627	▶ 児童生徒数(人)	748	347	1,095
	柳津小	121	学級数(学級)	24	12	36
	松永中	347				
精華中学校区	金江小	105	▶ 児童生徒数(人)	182	94	276
	藤江小	77	学級数(学級)	8	4	12
	精華中	94				
中央中学校区	東小	266	▶ 児童生徒数(人)	745	298	1,043
	桜丘小	171	学級数(学級)	25	10	35
	西深津小	308				
	中央中	298				
芦田中学校区	有磨小	80	▶ 児童生徒数(人)	223	128	351
	福相小	143	学級数(学級)	10	6	16
	芦田中	128				
駅家中学校区	駅家西小	349	▶ 児童生徒数(人)	740	353	1,093
	駅家北小	391	学級数(学級)	24	11	35
	駅家中	353				
誠之中学校区	箕島小	126	▶ 児童生徒数(人)	1,284	583	1,867
	曙小	392	学級数(学級)	41	18	59
	新涯小	766				
	誠之中	583				
城西中学校区	泉小	253	▶ 児童生徒数(人)	557	245	802
	山手小	304	学級数(学級)	18	9	27
	城西中	245				
大門中学校区	大津野小	363	▶ 児童生徒数(人)	769	347	1,116
	旭丘小	239	学級数(学級)	25	12	37
	野々浜小	167				
	大門中	347				
一ツ橋中学校区	引野小	240	▶ 児童生徒数(人)	375	258	633
	長浜小	135	学級数(学級)	14	8	22
	一ツ橋中	258				

※校番順

※学級規模別に色分け

- 9~17学級
- 18~27学級
- 28~34学級
- 35学級~

1 これまでの取組を踏まえた今後の学校再編の在り方

現在の中学校区毎に義務教育学校を整備した場合の学級数・児童生徒数

学級数 : 通常学級のみ (全児童生徒を通常学級編成として算出)
 ※1学級35人、特別支援学級は必要に応じて設置するため算定していない
 児童生徒数: 通常学級+特別支援学級 (2024年(令和6年)5月1日現在)

【各中学校区別の児童生徒数・学級数】

		児童生徒数(人)		前期	後期	計	
東朋中学校区	坪生小	573	▶ 児童生徒数(人)	681	471	1,152	
	大谷台小	108	学級数(学級)	24	15	39	
	東朋中	471					
駅家南中学校区	宜山小	272	▶ 児童生徒数(人)	1,047	479	1,526	
	駅家小	775	学級数(学級)	33	15	48	
	駅家南中	479					
至誠中学校区	熊野小	79	▶ 児童生徒数(人)	169	84	253	
	山南小	90	学級数(学級)	6	3	9	
	至誠中	84					
神辺中学校区	湯田小	888	▶ 児童生徒数(人)	1,626	641	2,267	
	中条小	109	学級数(学級)	50	19	69	
	道上小	629					
	神辺中	641					
神辺東中学校区	竹尋小	99	▶ 児童生徒数(人)	483	239	722	
	御野小	384	学級数(学級)	18	9	27	
	神辺東中	239					
神辺西中学校区	神辺小	576	▶ 児童生徒数(人)	576	339	915	
	神辺西中	339	学級数(学級)	19	11	30	
新市中央中学校区	常金丸小	93	▶ 児童生徒数(人)	849	473	1,322	
	網引小	216	学級数(学級)	27	15	42	
	新市小	192					
	戸手小	348					
	新市中央中	473					
加茂中学校区	加茂小	629	▶ 児童生徒数(人)	629	304	933	
	加茂中	304	学級数(学級)	21	9	30	
(参考)							
鞆の浦学園校区	鞆の浦学園(前)	117	▶ 児童生徒数(人)	117	83	200	
	鞆の浦学園(後)	83	学級数(学級)	6	3	9	
想青学園校区	想青学園(前)	343	▶ 児童生徒数(人)	343	218	561	
	想青学園(後)	218	学級数(学級)	12	7	19	

※校番順
 ※学級規模別に色分け
 ■ 9~17学級
 ■ 18~27学級
 ■ 28~34学級
 ■ 35学級~

2 新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について

施設の特徴「義務教育学校」

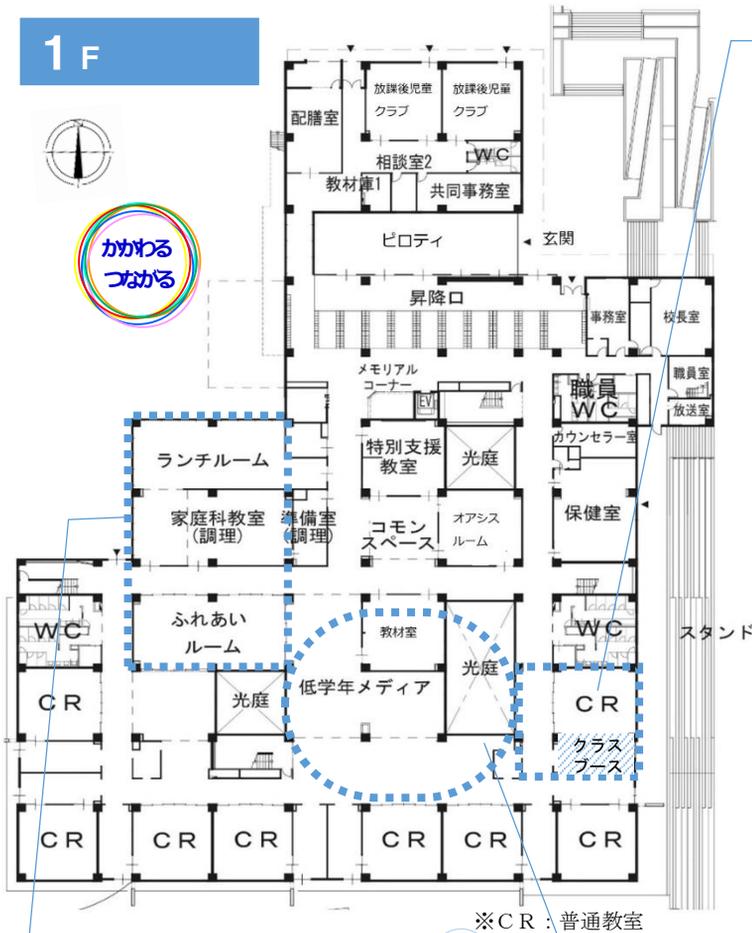
【学校コンセプト】

- ①いつでもどこでも学びの場となる学校
- ②つながりとふれあいの生活空間
- ③地域の人々との共創空間
- ④安心安全な学校施設

想青（そうせい）学園



1F



■普通教室（CR） **コンセプト 2**



▲通路側

- ・教室の扉をオープンにして、教室と通路やメディアコーナーをあわせた学習空間を創っている。
- ・扉には、ホワイトボードを設置し、授業やお知らせ、日替わりのクイズ等、柔軟に使用している。



▲クラスブース

- 教室の隣に設け、行き来する扉はガラスにして、教室の中が見えるようにしている。クラスブースからも授業を受けることができ、教員の目も届く。こどものカームダウンの場所にもなっている。

■ふれあいルーム・ランチルーム **コンセプト 3**



▲ふれあいルーム

地域の方々が校区の歴史、文化、産業等を素材に探究的に学ぶ新教科「SOSEI学」で授業を行ったり、子どもたちと交流したりしている。また、コミュニティ・スクールの協議・活動の場でもある。



▲ランチルーム

学年ごと、異学年などのグループで授業を行ったり、一緒に給食を食べたりしている。

■低学年メディア（多目的教室） **コンセプト 1**



カリキュラムや教育活動に応じた教材等を配置したり、展示したりして、低学年が共用で利用している。空間を柔軟に分割する可動展示パネルも設置。

2 新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について

施設の特徴「義務教育学校」

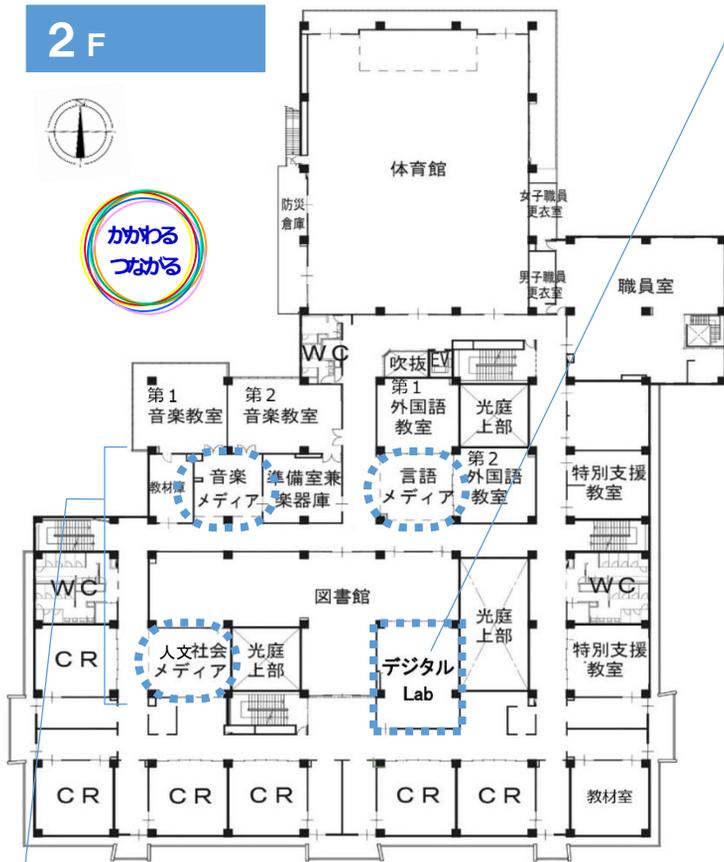
【学校コンセプト】

- ①いつでもどこでも学びの場となる学校
- ②つながりとふれあいの生活空間
- ③地域の人々との共創空間
- ④安心安全な学校施設

想青（そうせい）学園



2F



■デジタルLab コンセプト ①



高性能パソコンや3Dプリンターを設置し、授業や部活動で、立体模型の制作や動画編集など、創造的な活動をしている。

■メディアスペース(*) コンセプト ①



◀ 音楽メディア
琴やカホン（椅子型の打楽器）など、普段触れることのない楽器を展示し、こどもたちの興味・関心を促している。

▶ 言語メディア
百人一首やかるたなど、学びと遊びの両方で言葉を楽しんでいる。



◀ 人文社会メディア
土器や火縄銃、黒電話やタイプライターなど、昔の生活道具を展示し、実物に触わり、特徴を観察するなどして学んでいる。

(*) 各教科の特別教室の近いところに6つのメディアスペースを設け、授業で使ったり、休憩中に学んだりしている。共用スペースになっていることで、学年を越えた学びの場、興味関心を喚起する場となっている。

2F…言語メディア、音楽メディア、人文社会メディア
3F…理科メディア、数学メディア、アート&クラフトメディア

2 新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について

施設の特徴「義務教育学校」

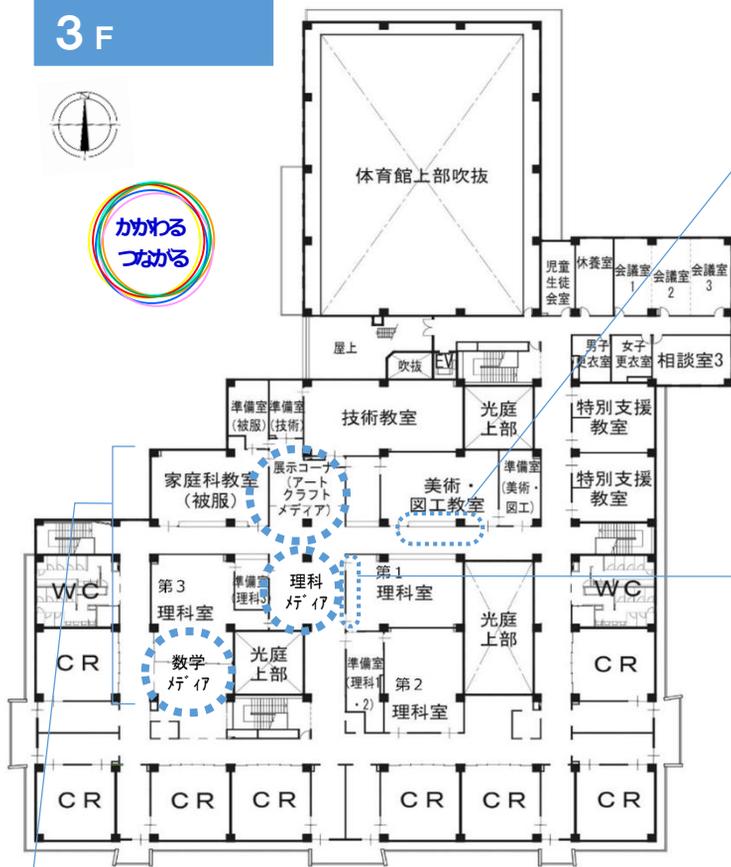
【学校コンセプト】

- ①いつでもどこでも学びの場となる学校
- ②つながりとふれあいの生活空間
- ③地域の人々との共創空間
- ④安心安全な学校施設

想青（そうせい）学園



3F



▲ 美術・図工教室の展示作品は通路から日常的に鑑賞できる。



▲ 壁や可動式パネル等至るところにこどもたちのワークシートを掲示し、学習発表の場としている。

■メディアスペース 1 コンセプト



▲ 数学メディア

数に関するパズルや立体模型キットなどを自由に手にとり、遊びながら学んでいる。放課後の自習スペースとしても使っている。



▲ 理科メディア

顕微鏡やうわざら天秤、書物など、理科・科学に関するものを置き、やってみたく思ったときに使いながら学んでいる。

■トイレ 4 コンセプト



▲ 腰掛便器、手すり、オストメイト対応 十分なスペースを確保

■その他 1 コンセプト

個別最適な学びと協働的な学びに対応した学習空間・生活空間とするため、対話のためのサークルベンチ、ひとりになれるパーソナルなソファ、揺れるスツール等の備品を設置している。



パーソナルなソファ ▶

こどもたちは学校のあらゆる空間を学びの場とし、友だちと切磋琢磨しながら、意欲的に学んでいる。



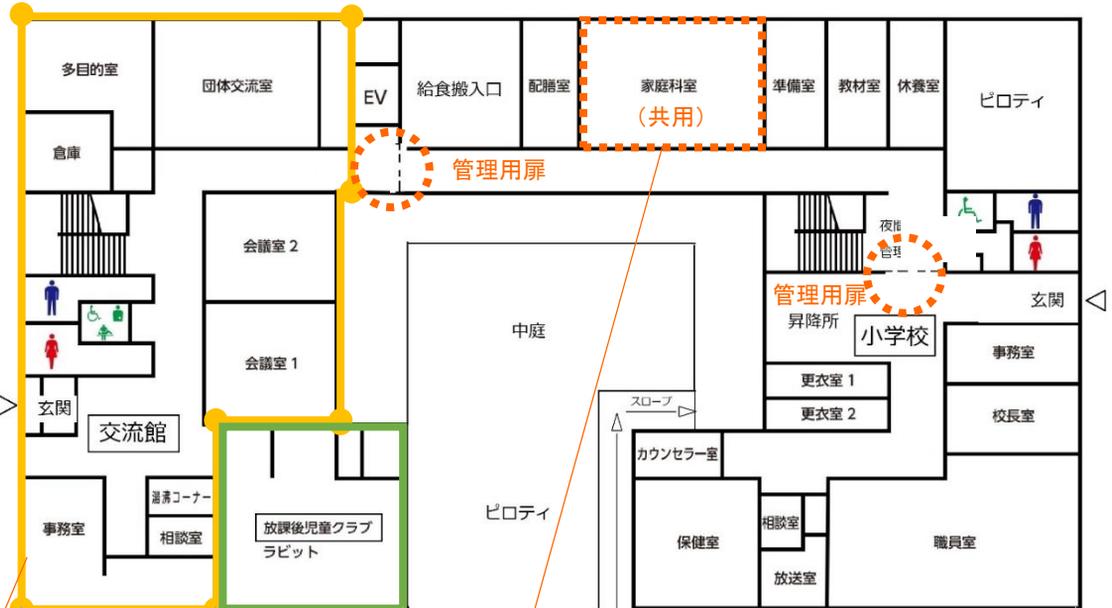
2 新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について

施設の特徴「複合化施設」小学校・交流館・放課後児童クラブ



常金丸（つねかねまる）小学校

1F



交流館

(門側に配置)

※入ってきた人を交流館職員がチェックしやすい

■交流館スペース

子どもたちが、日常的に地域の方々と話をしたり、ふれあったりすることができ、子どもたちにとって、交流館が安心して過ごせる居心地の良い場所となっている。



▲玄関



▲団体交流室

小学校

■共用スペース



▲家庭科室

食器などの収納スペースも学校と地域でルールを決めて使用している。

■管理用扉

基本的に開校時間は、学校と地域が日常的に連携し、ふれあえるよう、扉はオープンにしておき、夜間や休日など必要に応じて施錠している。

【施設のコネクト】

- ☺ 児童と多様な世代の地域住民との交流
- ☺ 学びの場を拠点とした地域コミュニティの強化
- ☺ 学校、家庭、地域の真ん中に子どもを置き、育てたい子ども像を共有し、力を合わせて地域の子どもたちを育てていくコミュニティスクールの取組の充実



『つどう まなぶ つながる』

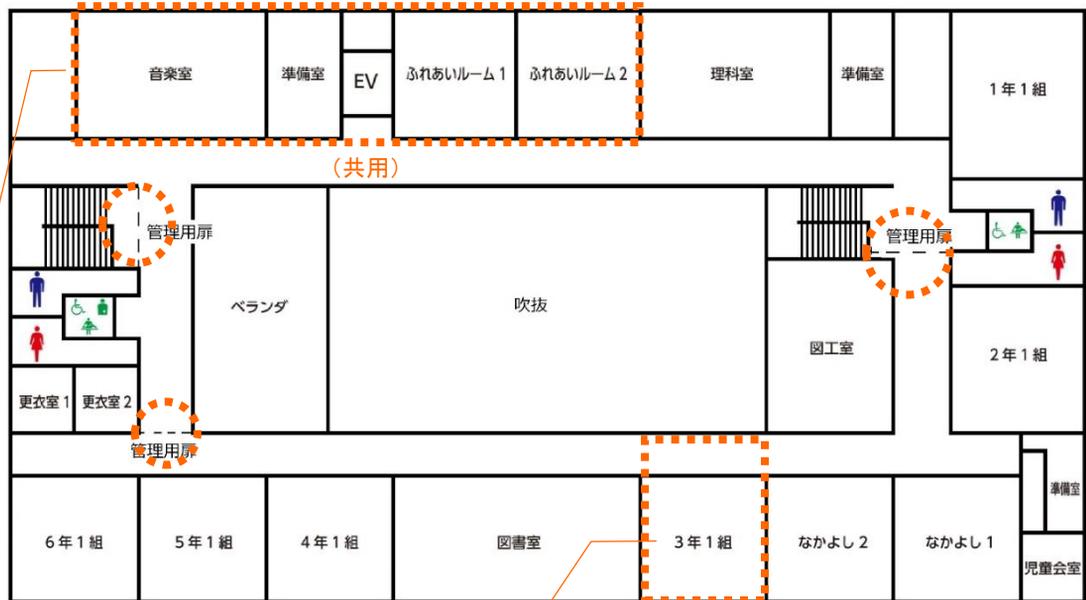
2 新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について

施設の特徴「複合化施設」小学校・交流館・放課後児童クラブ



常金丸（つねかねまる）小学校

2F



■共用スペース

■普通教室



▲ふれあいルーム

地域の方と子どもたちが、定期的と一緒に給食を食べる等、交流事業の場、コミュニティ・スクールの協議・活動の場としている。



▲通路側

扉をオープンにし、教室と廊下を一体的に使った学習空間・生活空間を創造できる。

【供用開始後の学校・交流館の声】



- 学習活動の幅が広がった。
- 行事や体験学習などの細かな連携が行いやすい。
- 児童が地域の方と触れ合え、あいさつする場が増えた。
- 自分たちだけの学校ではなく、地域の方と一緒に使用する施設という意識が持てて良かった。
- 児童とのふれあいを通して活力が生まれている。
- 児童も交流館を利用でき、施設を有効活用できている。
- 音楽室、家庭科室、ふれあいルーム等、共有の部屋が開放されていて便利

△交流館が遠くなり、利用が難しくなった。

【コミュニティ・スクールの導入】



施設が一体となっていることで、地域との協力体制がとりやすく、学校と地域、保護者が支え合いながら子どもたちを育てていく基盤づくりが進められている。

